

幼児期における基本的な生活習慣をどう育てたらよいか —園内における遊びを通して—

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の仮説	1
III	研究の全体構想図	2
IV	研究の内容	3
	1 領域との関連	3
	2 幼児理解	4
	(1) 人的環境としての教師の役割	4
	(2) 幼児の発達の課題	5
	3 基本的な生活習慣の形成について	6
	(1) 園生活における基本的な生活習慣・態度の捉え	6
	① 健康・安全に関する習慣や態度	6
	② 社会生活における望ましい習慣や態度	7
	4 幼稚園における遊びの構造	7
	(1) 交友関係	7
	(2) 遊びの場の設定	8
	5 幼児の活動と保育の形態	9
	(1) 幼児の行う活動の形態	9
	(2) 保育の形態	9
V	保育実践	10
	1 基本的な生活習慣の実態調査	10
	(1) 「家庭における基本的な生活習慣」アンケート集計結果	10
	(2) アンケート調査の結果と考察	12
	2 検証保育	13
	(1) テーマと本日のねらいとのつながり	13
	(2) 指導案	14
	(3) 週案	15
	(4) 検証保育を終えて	16
	実践1	17
	実践2	17
	実践3	18
VI	研究の成果と考察	20
	1 成果	20
	2 課題	20
	〔参考文献・引用文献・資料〕	20

幼児期における基本的な生活習慣をどう育てたらよいか

— 園内における遊びを通して —

宜野湾市立大山幼稚園 宮城慶子

I テーマ設定の理由

(中央教育審議会第一次答申)の方針では、変化の激しいこれからの社会において〔ゆとり〕の中で〔生きる力〕を育むことが打ち出されている。これからの子ども達に必要となるものは、いかに社会が変化しようと「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であることが強く望まれている。逞しく生きるための健康や体力が不可欠であることが最も大切である。幼稚園教育要領においても「幼稚園は幼児期が生涯にわたる人間形成の基礎を培う時期であることを踏まえ、幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して幼稚園教育の目標の達成に務めなければならない」とあり、幼稚園教育の目標の5項目の冒頭に(1)健康、安全で幸福な生活のための基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を培うようにすること(2)人への愛情や信頼感を育て、自立と協同の態度及び道徳性の芽生えを培うようにすることが掲げられている。

幼稚園においては幼児期の欲求や自発性、好奇心を重視した遊びや体験を通じた総合的な指導を行うことを基本とし、人間形成の基礎となる豊かな心情や想像力、ものごとに自らかかわろうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度の基礎を培うことが求められている。健康な心と体は、幼稚園の毎日の生活の中で身につけていくものであるとかがえる。幼児期が教師や友達とのかかわりの中で周りの環境を取り入れながら、遊びや生活を生み出していき、そこで得た充実感や満足感、時には挫折感を味わいながらも直接体験を通して培われるものと云われている。

幼稚園はさまざまな個性や違った発想をもった幼児が交流し合い刺激し合うことにより「育ち合う」といった点で家庭とは異なった場である。人間が人間らしく成長する過程には乳幼児期、幼児期、少年期、青年期とそれぞれの発達の段階で通過すべき課題がある。これまでの自分の保育について、幼児の一人一人の行動の意味を理解し、援助は適切だったかどうかと振り返ってみると、時には幼児の素晴らしい発見に感動し、友だちの良さを認め合い、学級みんなの活動へと発展させ、喜びを共有する事もできた。また入園前に基本的な生活習慣が身につけていない子が自分の持ち物の始末や遊んだ後の片付けができないとか、自分の思いを相手に伝わらずケンカになったり遊びの中に入れなかったり等の場合、声かけをしたり、実際指導を行ったが適切な援助であったかと考えると自信がない。

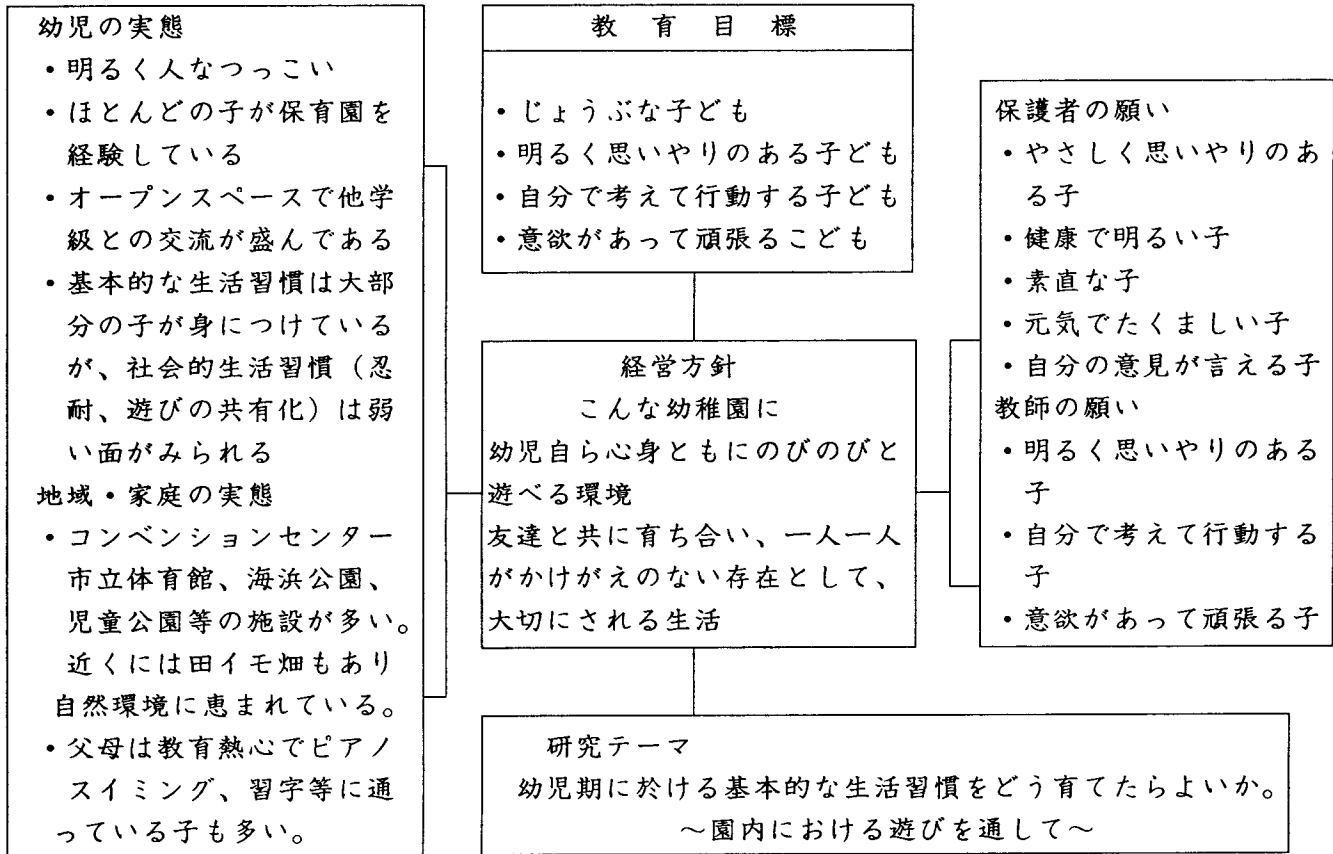
そこで、園生活のさまざまな場面で遊びを通して、他の幼児や教師と触れ合い、園庭の動植物とのかかわり等から社会生活に必要な生活習慣を身につけさせ、豊かな人間性の基礎を培いたいと考え本テーマを設定した。

II 研究の仮説

人格形成の基礎となる時期に、社会生活における望ましい生活習慣を身につけさせるために次のことを留意したい。

- (1) 園生活の遊びの中で、友だちや教師と深く関わり合うことによって社会生活における望ましい習慣や態度が育つであろう。
- (2) 保育の記録を通して、行為の意味をていねいに読み取れば、次の保育の計画をつくり出す手がかりになり、一人一人に合った援助ができるであろう。

III 研究の全体構造



研究の仮説

人間形成の基礎となる時期に、社会生活における望ましい生活習慣を身につけさせるために次のことに留意したい。

(1) 園生活の遊びの中で、友だちや教師と深く関わり合うことによって社会生活における望ましい習慣や態度が育つであろう。

(2) 保育の記録を通して、行為の意味をていねいに読み取れば、次の保育の計画をつくり出す手がかりになり、個々に応じた援助ができるであろう。

研究の内容

- ・テーマと領域との関連、幼児理解、基本的な生活習慣の形成、幼稚園における遊びの構造、園児の活動と保育の形態
- ・基本的な生活習慣の実態調査
- ・実践研究（指導案の作成、検証保育）

研究の方法

- (1) 文献、資料等による理論研究
- (2) 指導案を作成し検証保育を行う
- (3) 担当指導主事の指導助言を受ける

領域		ねらい
領域との関連	健康	(1) 明るく伸び伸びと行動し充実感を味わう。 (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。
	人間関係	(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 (2) 進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもつ。 (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。

Ⅳ 研究の内容

1. 領域との関連

領 域	ね ら い
健 康	1 明るく伸び伸びと行動し充実感を味わう。 2 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 3 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。

内 容

- (1) 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。
- (2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
- (3) 進んで戸外で遊ぶ。
- (4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- (5) 健康な生活のリズムを身に付ける。
- (6) 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする。
- (7) 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整える。
- (8) 自分の健康に関心をもち、病気の予防等に必要な活動を進んで行う。
- (9) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気をつけて行動する。

領 域	ね ら い
人 間 関 係	1 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 2 進んで身短な人と関わり、愛情や信頼感をもつ。 3 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

内 容

- (1) 喜んで登園し、先生や友達に親しむ。
- (2) 自分で考え、自分で行動する。
- (3) 自分でできることは自分でする。
- (4) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- (5) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- (6) 友達と一緒に遊びや仕事を進める楽しさを知る。
- (7) 友達とのかかわりの中で、言っではいけないことやしてはいけないことがあることに気付く。
- (8) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付く。
- (9) 共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。
- (10) 自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

2. 幼児理解

幼児理解は教師が一方向に理解しようとするだけでなく、生活をしていく中で幼児も教師を理解するという相互理解によるものであると同時に、相互の影響であることを踏まえる必要がある。

- 幼児期後期は -----
- | | |
|--|---------|
| <ul style="list-style-type: none">・自発性獲得の時期・探索的行動がさかん・家族以外の社会的な場との出会い・子ども同士の気持ちのぶつかり合い・大人のあり方を自分の中に取り入れる・道徳心の発達 | の時期である。 |
|--|---------|

- ・一人一人の子がそれぞれかけがえのない一人一人である。
- ・教師は子どもと生活を共にし、その中から幼児が今何に興味をもっているのか、何を感じているのか、何を実現しようとしているのか、どのような経験が必要なのか等を周囲の状況や前後のつながりと関係づける。
- ・人は周囲の環境に能動的に働きかけようとする力をもっている。
- ・能動性は周囲の人に自分の存在や行動を認められ温かく見守られていると感じる時に発揮される。
- ・幼児期は能動性を十分に発揮することによって発達に必要な経験を自分のものにしていく大切な時期である。

上記に上げたような事項を考慮に入れ幼児の指導にあたることが大切である。

(1) 人的環境としての教師の役割

- ・幼児を理解する。
一人一人の幼児の特性や発達の課題を捉える。
幼児の行動や心情を「理解」する。共感、承認、援助、共働
- ・信頼関係を築く。
幼児は教師にいつも見守られ、受け入れられているという安心感を得て主体性を発揮する。幼児の行動や発見、努力、工夫、感動などを受け止めて認めたり、共感したり、励まして心を通わす。
- ・環境を構成する。
教師は環境を構成する役割があると同時に、教師自身の言動や物事に対する姿勢が教育環境の中核となる。
- ・直接的な援助
個々の幼児が着実に発達するための体験をもつように、必要な助言や指示を行う。
アイデアをだす。手助けをする。相談相手になる。モデルになる。

(2) 幼児の発達の課題

発 達 の 過 程	幼 児 の 生 活 す る 姿
<p>(I) 一人一人の遊びや教師との触れ合いを通して<u>幼稚園生活に親しみ安定していく時期</u></p>	<p>ア 新しい生活に緊張感や不安感があり、教師と共に動こうとする。 イ 家庭で親しんだ玩具や遊具などを持ったりして遊ぼうとする。 ウ 他の幼児とのつながりはあまり見られず、自分が安定できることで遊ぼうとする。 エ 固定遊具やボールなどを使ったり、追いかけて遊ぶなど体を動かす遊びを好む。</p>
<p>(II) 周囲の人や物への興味や関心が広がり生活の仕方やきまりが分かり<u>自分で遊びを広げていく時期</u></p>	<p>ア 教師の言動に敏感で教師の意図に沿った動きをしようとする。 イ 他の幼児への関心が強くなり、いつも一緒にいたい2～3人の友だちができてくると共に、トラブルもおこりやすくなる。 ウ 新しい素材や遊びが提示されると興味をもって取り組もうとする。 エ 遊びの中でおしゃべりが多くなる。 オ 戸外で活動することを好み、体を動かして表現することを喜ぶ。 カ 幼稚園での生活の仕方がわかり、自分の身の回りのことは自分でしようとする。</p>
<p>(III) 友だちとイメージを伝え会い共に生活する<u>楽しさを知っていく時期</u></p>	<p>ア いつも一緒に遊ぶ友だちができるが、それぞれの自己主張が強くなる。 イ 友だちの遊びからの刺激を受けて遊びが広がる。 ウ 知的好奇心が高まり、身近な事象に興味をもってかかわる。 エ ルールのある遊びに興味をもつようになり楽しんで参加する。 オ 自分の身の回りのことは大体できるようになり、援助があれば皆と一緒に生活する場を整理しようとする。</p>
<p>(IV) 友だち関係を深めながら<u>自己の力を十分に発揮して生活に取り組む時期</u></p>	<p>ア 友だちと遊びの進め方などを相談しながら自分たちで遊びを展開しようとする。 イ 遊びの内容が豊かになり、工夫したり試したりすることを楽しむ。 ウ 想像をめぐらしながら様々な表現活動を楽しむ。 エ グループ同士でゲームなどを好んで行う。 オ 当番活動など、自分の役割を果たそうとする。</p>
<p>(V) 友だち同士で<u>目的をもって幼稚園生活を展開し深めていく時期</u></p>	<p>ア 一つの目的に向かって学級の友だちと一緒に協力して活動を展開することができる。 イ 身近に起こる出来事などに関心をもって自分たちの活動に合わせて使おうとする。 ウ 遊具や用具などを自分たちの活動に合わせて、様々な組み合わせで使おうとする。 エ 幼稚園生活の中で、ある程度の見通しをもって活動を展開する。 オ 必要に応じ指示に従うなどの集団行動がとれるようになる。</p>

(幼稚園教育指導書 増補版より)

3. 基本的な生活習慣の形成について

生活するために必要な習慣の形成の第一歩は、家庭において行われる。幼稚園は、それぞれの家庭で幼児が獲得した生活上の習慣を、他の幼児と共に生活する中で、仲間集団において友達と関わりながら、さまざまな体験を通して一人一人の発達を促し、社会的な生活習慣を身につけていく場であると言われている。園生活において達成感、充実感が得られ自信がもてた時心動かされ進んで友達と関わり、意欲的に活動に取り組むようになるとともに必要な生活習慣が身につけていくと考えられる。

近年、幼児を取り巻く環境は、家庭生活においては核家族化、少子化、両親の価値観の多様化の傾向等、更に社会情勢の急激な変化等、幼児の望ましい生活習慣にいろいろな影響を与えているのではないかと考えられる。

本園の幼児の実態を見た場合、基本的な生活（生理的、物理的）は大部分の子が身につけているが社会的な生活（忍耐、遊びの共有化）においては弱い面が見られる。そこで個々の幼児の発達をふまえた指導・援助のあり方、指導の日常化、具体化、家庭との連携を図ることが大切であると考えられる。

(1) 園生活における基本的な生活習慣・態度の捉え

① 健康・安全に関する習慣や態度

事 項	指 導 内 容
食 事 の 習 慣	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事に必要なマナーや食事の仕方が身につくようにする。 ・ 食事の前の身支度や準備などができるようになる。 ・ 好き嫌いをしないで食べるようにする。 ・ 友達と楽しく、決められた時間内に食事をする。
排 泄 の 習 慣	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で必要な時に用をたすことができる。 ・ 違った場所や異なった便器でも用がたせる。 ・ トイレのスリッパを並べたり手を洗うことができる。
清 潔 の 習 慣	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で洗顔、歯磨き、うがいができる。 ・ ハンカチ、ティッシュを忘れず持ってきつつかう。 ・ 進んで手洗い、うがいができる。 ・ 手足の汚れをせっけんをつかって上手に洗う。 ・ 頭髪・手・足・爪など清潔にすることに関心をもつ。
衣 服 の 着 脱 の 習 慣	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衣服の前後左右がわかり、一人で脱いだり着たりする。 ・ 汗をかいたら拭く・暑い時には帽子をかぶるなどの仕方がわかる。 ・ 靴の左右がわかって履く・紐が結べる。 ・ 活動しやすい服装などに気付き、温度差によって衣服の調節ができる。
安 全 な 行 動 の 習 慣	<ul style="list-style-type: none"> ・ 濡れたり汚れたりした物の始末ができる。 ・ 安全に登降園する。 ・ 遊具・用具のいろいろな使い方に馴れ、安全に気をつけて使ったり遊んだりする。 ・ 危険な場所、行ってはいけない場所を知り、安全に気をつけて行動する。 ・ 避難の仕方がわかる。 ・ 安全に対する関心も高まり、安全な歩行など自分から心がける。 ・ 知らない人について行かない。

② 社会生活における望ましい習慣や態度

事 項	指 導 内 容
挨拶の習慣	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要なあいさつがわかりする。 場に応じたあいさつをする。 先生だけでなく、友達や回りの人にも自分から進んであいさつをする。
片付けの習慣	<ul style="list-style-type: none"> 自分の所持品の始末をする。 使った物を元の場所に戻す。 場所、種類、形、数等によって片付けることができる。 友達と役割を分担しながら、協力して片付けることができる。 遊んだあと自分からすすんで片付ける。
聞く・話す態度	<ul style="list-style-type: none"> 先生や友達の話に興味関心をもって聞く。 生活に必要な言葉がわかり使う。 友達には「くん・さん」をつけて呼ぶ。 先生や友達と日常の会話をする。 要求を言葉で表現したり、わからないことを自分で訊ねる。 絵本や物語などに親しむ。 です・ます をつけて話をする。
生活のきまり	<ul style="list-style-type: none"> 自分の物と他人の物の区別がわかる。 生活の仕方がわかり自分の身の回りのことは自分でする。 時間や約束を守る。 共同の遊具・用具を大切に使う。 必要に応じ、指示に従うなどの集団行動をとることができる。 当番活動など、自分の役割を果たそうとする。 きまりの大切さがわかってまもる。

4. 幼稚園における遊びの構造

(1) 交友関係

幼児が遊びを楽しめるようになるためには、あそびの目的に向けて自分の思いを友達が受け入れてくれるだけではなく、自分もまた友達の思いを受け入れるような友達関係になること。それに遊び場を自分たちで構成し、遊びに必要な物をつくり、あそびの流れを作りだせるようになることが必要となる。しかし、そのような状態に至るまでは、友達関係の発達と、遊び場の構成、物づくり、動きの流れ作りのそれぞれについての経験を豊かにする過程が相互にかかわり合っていくことが必要である。

「友達関係」は、側にいる幼児に自分の思いを一方向的にぶつけるだけの、また相手の思いに従ったり避けたりするだけの関係から、そのときによって自分の思いが相手に受け入れられることがあったり、相手の思いを自分から受け入れることがあったりする関係へ、そしてそれぞれの思いが部分的に受け入れあうことが断続的に行われる関係から、友達と共通のイメージを見出しながらいごける関係へ、さらに友達と共通なイメージに向けて動きながら、独自の動きも加えていけるような関係に発達していく。また、遊びの中の役割については、はじめはそれぞれがある役割になったつもりで動いている段階から自分の役割を力関係に応じて宣言していくようになる段階へ、そして力の強い幼児が役割を割り振っていく段階になり、さらに力の強い幼児を中心に役割を取得しながらお互いに納得し合うようになっていく段階がみられる。

(2) 遊びの場の設定

遊びの「場」は、はじめ常設されている場や、道具や材料などを持ち出した場がつかわれるがやがて常設されている場を整えたり、そこに何かを付加したり、また常設された場が使いこなせるようになる、それを遊びのイメージにあうように見立てたり、それに何かを付加して見立てたり、自分たちで遊び場をつくったりして遊ぶようになる。そして遊び場を構成する場所は次第に周囲の遊びのことを考えて場を決められるようになってくる。しかし、遊び場を自分たちで構成しても、その見立て方は幼児によって異なるので、構成していく過程でそれが何かを伝えながら構成していく姿がみられる。その場合、はじめは場を構成することが遊びになっていることもあるが、その場の作り方が容易にできるようになると、その場を使って遊びが行われるようになっていく。また、この遊び場の構成は個々に構成するがそれが繋がって一つの場が構成されるようになる段階、はじめ個人が動いて構成していくのを見て後からほかの幼児が参加して一つの場を構成していく段階はじめから何人かの幼児が共通のイメージで構成していく段階がみられる。

「物」づくりは、はじめつくることが遊びになっている段階から、つくったものを媒介にそばにいる幼児に一方向的に働きかける段階、遊びたい幼児と同じ物をつくってかかわって遊ぶ段階へそして遊びに必要な物をつくり、それを身につけたり、持ったりして遊ぶ段階から、遊びに必要なものとして作られた物をほかの幼児がそれを受け入れ使って遊ぶ段階へ、さらに遊びに必要な物を遊びの目的に向けて個々につくり、それらを使い合って遊ぶ段階になっていく。また、「物」は本来意味しているものをそのまま使ったり、自分なりに意味づけて使ったりする段階から、多少変形して使う段階へ、さらにより本物に近い物の製作はより高度になっていくが、それに応じて遊びの流れがより複雑になっていくことがみられる。

「動き」は、はじめは、そのものになったつもりでの断片的な動きにすぎないが、それが少しずつつながっていくようになる。そしてこれらの同種の動きに異種の動きが加わるようになる。さらに、そこに時の流れが加わり、遊びの流れがでてくるようになる。遊びの流れは、一つの遊び場をよりどころに動きを楽しむだけでなく、そこを起点としてもう一つの遊び場に出かけて行って遊びを展開し、またはじめの遊び場に戻って遊ぶことを繰り返すことによって豊かになっていく。この場合、もう一つの遊び場ははじめ園庭などの場であることが多いが、やがてほかのグループの遊び場になっていくことで、遊びが充実し、発展することになる。

これらの「場」「物」「動き」はそれぞれが単独に行われ、それ自体が楽しまれていることがあるし、それらが幼児たちのものになり、先行経験として幼児たちの中に蓄積され、共有されてくると、「場」「物」「動き」の一つの要素からほかの一つの要素が加わって遊びが行われるようになる。そしてまず遊び場が構成され、遊びに必要なものがつくられ、それらを使って動き、その動きが、別な遊び場を使って行われ、時の流れが出てくるというようになるが、その場合、遊びが盛り上がり、遊びの充実感が得られるようである。

5. 幼児の活動と保育の形態

(1) 幼児の行う活動の形態
 幼稚園では、ねらいを達成するために有効な環境の構成をし、幼児の活動を誘い出すことにより保育を展開する事になる。この環境構成によって誘いだされる活動は、それが、どのよう保育の形態で行われるかによって、同じ活動であっても、幼児の中に育って行くものが異なるので、その味や趣を十分吟味する必要がある。
 保育の形態は、保育者が幼児の指導を展開するたための形態とそれに関わって行なわれる幼児の活動の形態とが組み合わさるものであって、それらは流動的に移行して行くものであって、固定的なものだはないと、またそうでない幼児の活動が充実しない。
 具体的な活動の選択、展開は幼稚園教育要領の第3章「指導計画作成上の留意事項」において示されているように、およびそのような過程を経て行われる。

- ◎ 具体的なねらいや内容に基づいて環境を構成する。
- ◎ 幼児が自ら環境にかかわって活動を展開する。
- ◎ 幼児が望ましい方向に向かって活動を展開して、いけるように教師が適切な援助を行う。

(2) 保育の形態

自由な形態	一斉の形態
<p>自由な形態とは、活動の選択を幼児にまかせせることを原則とし、その活動の中で幼児をねらいに向けて指導するという形態</p> <p>達成したい事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の情緒の安定をはかる。 ・ 周囲の環境に働きかけて、遊びをつくり出していく力や友だちと関わる力を育てる。 ・ 自分なりに課題をもち、それを乗り越えていこうとする構えを育てる。 ・ 保育者の刺激により自分から遊びの幅を広げ、深めていこうとする構えを育てる。 ・ 遊びと保育者の与えた課題とを向立させて取り組む構えを育てる。 ・ 友だち関係育てるとともに、心情を深める。 ・ 課題に対して幼児なりに主体的に取り組む構えを育てる。 	<p>一斉の形態は、あるねらいを達成しようとするときに学級全体の幼児に、同時に共通な経験を与えようとする。保育者が、学級集団の機能を生かすとともに同時に共通な活動を幼児に経験させる指導の形態</p> <p>達成したい事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者の意図や父母に伝えたい事項を学級の幼児に理解させ、その方向に動けるようにする。 ・ 学級の幼児と一緒に過ごすことを楽しむ活動として、学級としてのまとまりをそだてる。 ・ 個々の幼児のよさを学級の幼児に紹介し、個々の幼児の存在を学級の中に位置づけるようにする。 ・ 幼児の経験の片よりをうめることによって活動の幅をひろげる。 ・ 同時に共通な活動を幼児に経験させる。
<p>展開の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境構成や保育者の動きによって、幼児の活動をうながす。 ・ 幼児の遊びと併行して、保育者の意図する新しい活動を経験させる。 ・ 幼児の遊びと併行して、個またはグループの課題に取り組ませる。 ・ 特定の環境構成をしないで、遊びの展開を幼児にまかせせる。 	<p>展開の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自由な形態における幼児の遊びを取り上げて、学級の幼児に一斉の形態で経験させる。 ・ 一斉の形態で指導する必要がある経験や活動を一日の流れの中で取り上げて指導する。 ・ 日常の活動の流れを打ち切って、年間計画に位置付けられている行事的な経験や活動を一斉の形態で指導する。
<p>活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体表現 リズムあそび 楽器あそび わらべうた(かごめ あぶくた) たことしのぼたん) ・ 絵かき 黒板 書きボード 自由画帳 壁面 ・ 製作あそび ベースボール サポート 絵本つくり 紙芝居 つくり えのぐあそび ・ ままごと ごっこあそび 積み木ブロック ・ 固定遊具 おにごっこ 縄跳び 竹馬 ボールあそび フープ ・ 巧技台 跳び箱 鉄棒 ・ 動植物の世話 	<p>活動例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の遊びの後片付け ミルク弁当等の活動 登降団時の活動 ビデオ視聴 朝会 集会 ・ 行事の入り園式 修了式 終業式 遠足 健康診断 避難訓練 交通安全指導 ・ 誕生会 おゆうぎ会 うんどう会

この形態は、幼児の側から見た活動の状態で、それらは、個人、グループ、学級全体の三つに大別される。

- ① 個人で行う活動の形態
 個人で取り組む活動の形態といっても、個々別々に活動に取り組むこともあるが、やがて、同じ場に物を媒体として幼児がかたまると、同じ活動に個々に取り組むようになるし、さらには、側にいる幼児の活動に刺激されるようになるものである。したがって、みんなから離れて、一人でやっていたことを指す訳ではない。
- ② グループで行う活動の形態
 グループとして活動に取り組むといっても、個々のイメージが共有するものを媒体に少しずつながって、共通のイメージが広がって、グループとしての活動になり、やがてグループとして目的的に活動に取り組む姿が見られるようになるものである。またルーラーの共通理解をもとにグループとして活動に取り組む姿もある。なお、グループといっても2-3人の小グループから、12-13人程度の大グループで活動する姿もあるし、グループが二つに分かれて続いたり、個々のグループが主体的に活動しながら、他のグループと交流する姿もある。
- ③ 学級全体で行う活動の形態
 学級全体として活動に取り組む姿を指すが、それはみんなで目的を達成する喜びを味わう活動として行われる。この形態の広がりとして、園全体、学年、年少、年長組みで取り組む経験や活動の形態もある。

V 保育実践

1 基本的習慣の実態調査

(1)「家庭における基本的生活習慣」 アンケート集計結果

実施日：5月30日 目的：園生活における社会性を育てるため 対象：全父母130人

1 朝、起きたら「おはよう」とあいさつができますか。

イ 自分から進んでできる	58%
ロ 親に促されてできる	41%
ハ あいさつしない	1%

2 朝、自分で歯を磨いていますか。

イ 自分から進んで磨く	35%
ロ 親に促されて磨く	60%
ハ 歯を磨かない	5%

3 朝、自分で顔を洗えますか

イ 自分から進んで洗う	35%
ロ 親に促されて洗う	55%
ハ 親が洗う	6%
ニ 洗わない	4%

4 食後、自分が使った食器を片づけていますか

イ 自分から進んで片づける	46%
ロ 親に促されて	42%
ハ 片づけない	12%

5 ハンカチを自分で持っていきますか。

イ 自分から準備し持っていく	24%
ロ 親に促されて	39%
ハ 親が準備する	37%

6 家を出るとき「行って来ます」と言えますか

イ 自分から進んでいえる	70%
ロ ときどき言える	28%
ハ 親に促されて	2%
ニ 言えない	0%

7 家に帰ったら「ただいま」と言えますか。

イ 自分から進んで言える	78%
ロ ときどき言える	20%
ハ 親に促されて	1%
ニ 言えない	1%

8 脱いだ靴はそろえておくことができますか

イ 自分から進んでできる	15%
ロ ときどきできる	52%
ハ 親に促されて	22%
ニ できない	11%

9 トイレに行ったら手を洗っていますか。

イ 自分から進んで洗う	65%
ロ ときどき洗う	19%
ハ 親に促されて	13%
ニ 洗わない	3%

10 出かけるときには行き場所を家の人に告げていますか。

イ 自分から進んで告げる	60%
ロ ときどき自分から	26%
ハ 親に促されて	10%
ニ 黙って出かける	4%

11 外から帰ってきたら手を洗っていますか

イ 自分から進んで洗う	39%
ロ ときどき洗う	29%
ハ 親に促されて	32%

12 汚れたハンカチや靴下等を洗濯置き場に置いていきますか

イ 自分から進んで持っていける	40%
ロ ときどき持っていく	30%
ハ 親に促されて	21%
ニ 持っていかない	9%

13 食事の前に手を洗うことができますか。

イ 自分から進んで洗う	38%
ロ ときどき洗う	30%
ハ 親に促されて	31%
ニ 洗わない	1%

14 食事のとき「いただきます」と言えますか。

イ 自分から進んで	66%
ロ ときどき言える	25%
ハ 親に促されて	5%
ニ 言わない	4%

15 夕食後（寝る前）歯を磨くことができますか。

イ 自分から進んで磨く	38%
ロ ときどき磨く	20%
ハ 親に促されて	37%
ニ できない	5%

16 おやつ後に口をゆすいでいますか。

イ 自分から進んでゆすぐ	5%
ロ ときどきゆすぐ	26%
ハ 親に促されて	46%
ニ できない	23%

17 「おやすみなさい」と言えますか。

イ 自分から進んで言う	72%
ロ ときどき言う	19%
ハ 親に促されて	8%
ニ 言わない	1%

18 ゴミはゴミ箱に捨てることができますか。

イ 自分から進んでできる	66%
ロ ときどきできる	29%
ハ 親に促されて	5%
ニ できない	0%

19 脱いだ服をきちんとたたんでおけますか。

イ 自分から進んでたたむ	13%
ロ ときどきたたむ	29%
ハ 親に促されて	32%
ニ できない	26%

20 靴や帽子を決められた場所に置くことができますか。

イ 自分から進んで片づける	33%
ロ ときどき片づける	39%
ハ 親に促されて	22%
ニ できない	6%

21 使ったおもちゃは決められた場所に片づけていますか。

イ 自分から進んで片づける	32%
ロ ときどき片づける	29%
ハ 親に促されて	36%
ニ できない	3%

22 横断歩道や歩道橋を渡っていますか。

イ 自分から進んで渡る	53%
ロ ときどき渡る	23%
ハ 促されて渡る	15%
ニ 渡らない	9%

23 朝、登園前に大便を済ませていますか。

イ 毎日する	12%
ロ ときどきする	53%
ハ 促されてする	3%
ニ しない	32%

24 決まった時間になったら寝ていますか。

イ 自分から進んで寝る	29%
ロ 親に促されて寝る	66%
ハ その他	5%

25 起きる時間

6時	～6時	～7時	～7時半	～8時	～
5%	27%	56%	8%	4%	

26 寝る時間

8時半	～9時	～9時半	～10時	～10時半	～
2	20%	36%	32%	8%	2%

<遊びについて> ※複数回答

27 お子さんはどんな遊びをしていますか。

イ おもちゃ	97人	ロ お絵かき	84人
ハ ビデオ	80	ニ 絵本	72
ホ テレビ	60	へ 自転車	50
ト ままごと	42	チ ファミコン等	34
リ その他（トランプ、虫取り等）			22

28 お子さんはどこで遊んでいますか。

イ 自分の家	93人	ロ 家の周り	69人
ハ 遊び場	55	ニ 祖父母の家	24
ホ 学童	22	へ 道路	1

29 今、習い事をしていますか。

イ ピアノ	19人	ロ スイミング	13人
ハ 書道	12	ニ 公文教室	9
ホ そろばん	7	へ 英語	6
ト 琉舞等	3	チ なし	69

(2) アンケート調査の結果と考察

1 健康安全に関する習慣や態度について

(1) 食事の習慣

「いただきます」「ごちそうさま」の食事のあいさつは家庭においてもほとんどの子ができている。園生活においては、ミルク・弁当の日、誕生会等で先生や友達と一緒に和やかな雰囲気の中で、しっかりと食べることを中心にしながら、好き嫌いをなく食べること、こぼさないで食べることなどと織りまぜて、感謝の気持ちを持たせたり、あいさつなど食事のマナーに関する習慣も指導していきたい。

(2) 排泄・睡眠の習慣

約半数の子が登園前に排便を済ませる習慣が身に付きつつある。起きる時間については、ほとんどの子(83%)が6時半から7時半までに起きている。寝る時間については、8時半から10時までに寝ている子がほとんどである。(88%)

排便の習慣が身に付くということは、幼児が自分の体を管理することができるようになり始めるという意味を持つ。排便は睡眠と食事に深く関係すると言われているので家庭と連携を取りながら、しっかり食べることと十分に睡眠をとる指導を行うことが大切である。

(3) 清潔の習慣

洗面、歯磨き、うがい、手洗い、ハンカチについては、まだ身に付いていない子が多く見られる。手を洗う、拭く、うがいや歯磨き、鼻をかむ、爪を切る、髪をとかすなど自分でしようとする心を大切に、無理強いせずに様子を見ながら励まし、幼児の発達段階に応じて指導したい。

(4) 衣服の着脱の習慣

自分の衣服を畳むことができる子が40%である。園生活において着替えや脱いだ服の始末は、健康診断、身体計測、プール遊び等の機会に指導したい。水遊び、砂遊びなどで服が汚れた、汗をかいたとき等必要に応じて自分で着替えができるようにしたい。気温の変化に応じた衣服の調節もできるようにしたい。

(5) 安全な行動の習慣

出かけるとき、行き場所を家の人に告げる子は、86%である。また、横断歩道や歩道橋を渡る子は76%である。しかし、横断歩道等を渡らない子が無回答を合わせると10%もいるので、家庭や地域と連携を取って指導する必要がある。

2 社会生活における望ましい習慣や態度

(1) あいさつの習慣

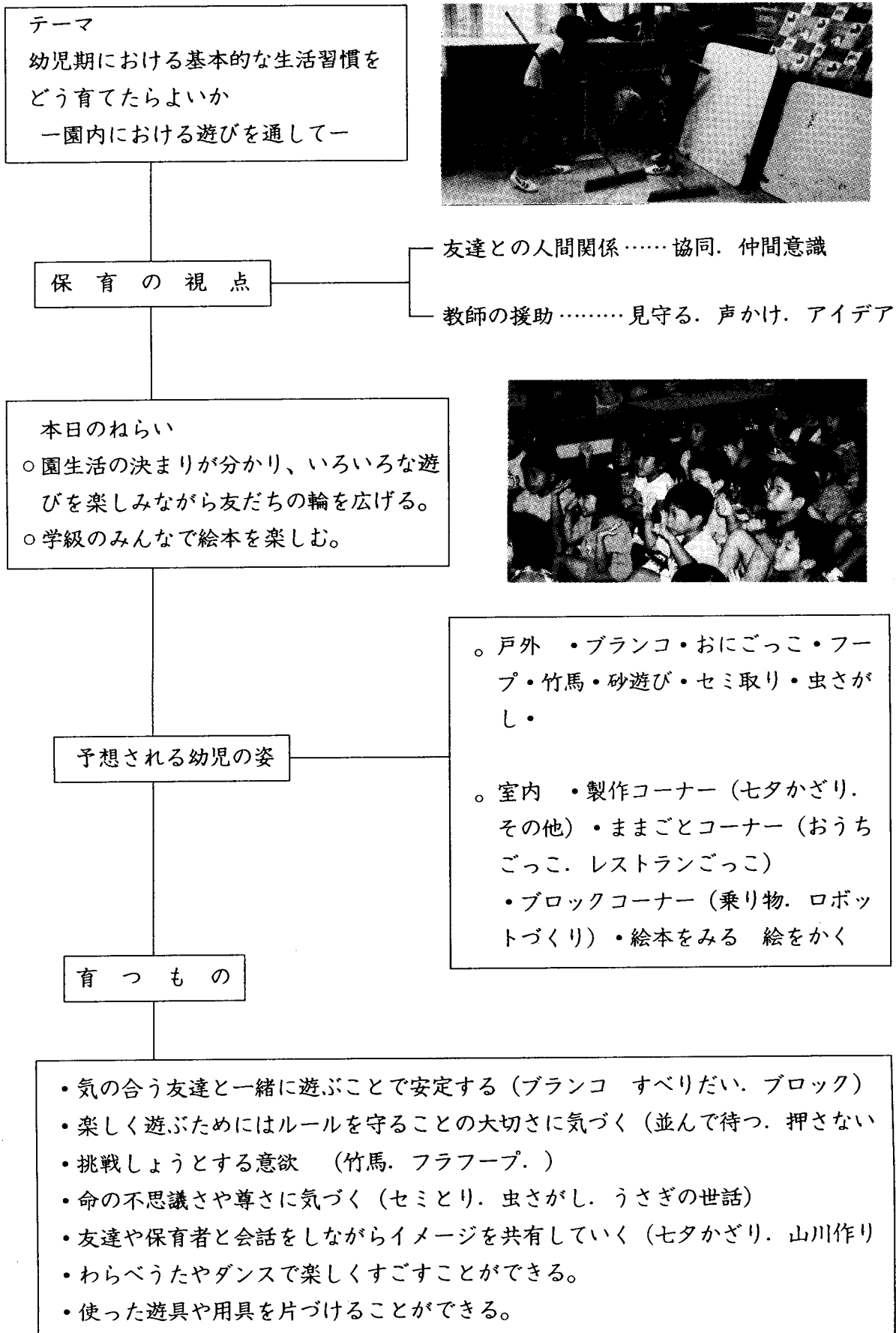
食事の時・帰宅の時・寝る前等のあいさつは、ほとんどの子ができている。先生や友達と笑顔であいさつを交わす心地よさを味わうことによって、日常のあいさつ(「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」「しつれいします」等)が自然にできるようにしていきたい。

(2) 片づけの習慣

鞆や帽子を決められた場所に置くことができる子は72%で、使ったおもちゃの片づけができる子は71%である。集団生活を楽しく過ごすためには、道具だな、靴箱等自分の持ち物を整理整頓することや遊んだ後を片づけて、皆で生活する場所をきれいにすると気持ちがよいという経験を通して、自分の身の回りを自分で片づけようとする力を育てたい。場所、種類、形、数などによって工夫する。

2 保育検証

(1) テーマと本日のねらいとのつながり



(2) 指導案

<p>指導案 平成10年7月2日 (木) 大山幼稚園 在籍 男子 78人 女子 60人</p>	<p>◎ 幼児の活動 ・ 教師の援助と配慮</p>	<p>宮城カツエ(2組)島袋純子(1組)宮城慶子(研教)宮城供美(3組) 米須祐子(4組)下条紀子(5組)米須文字(世話役)</p>	<p>宮城カツエ(2組)島袋純子(1組)宮城慶子(研教)宮城供美(3組) 米須祐子(4組)下条紀子(5組)米須文字(世話役)</p>
<p>幼稚園の姿</p>	<p>・ 園生活に慣れ、いろいろな活動が広がるようになってくるが中には園生活のリズムにのれず自分の思いのままに行動しがちな子もいる。 ・ 遊びの中でお互いのイメージが伝わらなかつたり、自分の思いがうまく伝えきれず遊びが中断してしまふ場面もみられる。</p>	<p>ねらい および 内容</p>	<p>◎ 園生活のきまりが分り、いろいろな遊びを楽しみながら友だちの輪を広げる。 ・ 自分の思いを伝えたり、友達の違いを受けとめて遊びをすすめる。 ・ 学級の皆で絵本を楽しむ。</p>
<p>時間</p>	<p>予 想 さ れ る 生 活 の 流</p>	<p>開 展 と 展 開</p>	<p>閉</p>
<p>8:30</p>	<p>◎ 登園 ・ あいさつをする。 ・ 所持品の始末をする。 ・ 出席シールを貼る。</p>	<p>・ 気持ち良くあいさつを交わし視診をしたり、コミュニケーションをもつようにする。 ・ 身の回りの始末をしながら活動へ促す言葉かけをしていく。</p>	<p>(遊びのコーナー) ○室内</p>
<p>10:00</p>	<p>◎ 朝の活動 ・ 草花への水やり ・ 飼育動物の世話</p>	<p>・ こども達と取り組みながら、自ら関わっていく気持ちを受け止めていく。 ・ サリガニやおたまたまじゃくしの成長の発見や驚きを大切に受けとめる。 ・ 保育者も一緒に遊びながら気持ちを受けとめたり、励ましたりして意欲をもてるように雰囲気づくりにする。 ・ 遊びに必要な物がすぐ作れるように素材を用意し、それぞれの遊びにつなげるようになる反復、用具や素材の扱い方が複雑になってくので、使い方や扱い方を見直すような声かけをする。 ・ 継続して遊びたい子どもたちの思いや見通しを受けとめそれに合った準備や片付けの方法を保育者が一緒に知らないながら知らせていくとともに、明日も楽しく遊ぶために場を整えておく事を伝え必要性を感じて行えるようにする。</p>	<p>製作コーナー ・ 友達や保育者と会話をしながら七夕かざりを作っている姿が見られる。イメージを共有していく楽しさを味わってほしい。</p> <p>リズムあそび ・ わらべうたやダンスを、使った用具や遊具を協力して片づける事のできるように援助をする。</p> <p>絵本コーナー ・ 絵本や図鑑を見て欲しい</p> <p>ままごとコーナー ・ おうち、レストラン(ごっこ) エイトブロック</p>
<p>10:15</p>	<p>◎ 学級でのひととき ・ 歌や手遊びをする。 ・ 絵本をみる。 (おぼしきままになったたいこ)</p>	<p>・ 頑張っていた姿を認め、落ち着いた気持ちで触れ合う。 ・ 幼児の興味関心のある題材をえらぶ。 ・ 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わえるようにしたい。 ・ 工夫して読む。</p>	<p>戸外 ・ 危険がないように遊びのスペースに配慮する。 ・ 楽しく遊ぶためにはルールを守る事が大切であるということに気づかせざる援助。並んで待つ、押さない命の不思議さや尊さに気づかせたい。図鑑で調べる事でより興味をもって欲しい。</p>
<p>11:10</p>	<p>◎ お弁当の用意をする。 ・ お弁当をたべる。</p>	<p>・ 手洗い、ハンカチの使い方が身についていない子への指導をする。 ・ 和やかな雰囲気食べる。 ・ 好き嫌いをしなないで感謝をして食べるように声かけをする。 ・ 食後のぶくぶくが、すすぎの指導をする。</p>	<p>・ 挑戦しようとする意欲を大切にすること。 ・ 砂の性質にどのような気づきがあるのか、どのように工夫していくのかを見守りつつ援助していく。 ・ 遊んだ遊具や用具の片付けができるよう援助する。</p>
<p>12:30</p>	<p>◎ 降園 ・ 一日の振り返り ・ 降園の支度をします。</p>	<p>・ 一人一人と触れて、落ちついた気持ちで降園させたい。 ・ 交通ルールを守って帰るよう安全の再確認をし、ゆとりをもって(さようなら)のあいさつをする。</p>	<p>・ 遊んだ遊具や用具の片付けができるよう援助する。</p>
<p>反省 評価</p>	<p>・ 暑さのためか、外の活動に発展が見られず、大部分の子が室内の活動になった。制作活動、絵本を見る子、ままごと、ブロックあそび、ボウリング等、ホールでの活動が主になった。 ・ 場所の確保に配慮すべき点があった。 ・ 学級での絵本の読み聞かせはどの子どもも興味深く集中して見ていた。読んだ後の反応も良く、子どもの発達段階に合った教材「おぼしきままになったたいこ」だと思ふ。</p>	<p>・ 製作コーナー ・ 友達や保育者と会話をしながら七夕かざりを作っている姿が見られる。イメージを共有していく楽しさを味わってほしい。</p> <p>・ リズムあそび ・ わらべうたやダンスを、使った用具や遊具を協力して片づける事のできるように援助をする。</p> <p>・ 絵本コーナー ・ 絵本や図鑑を見て欲しい</p> <p>・ ままごとコーナー ・ おうち、レストラン(ごっこ) エイトブロック</p>	<p>・ 危険がないように遊びのスペースに配慮する。 ・ 楽しく遊ぶためにはルールを守る事が大切であるということに気づかせざる援助。並んで待つ、押さない命の不思議さや尊さに気づかせたい。図鑑で調べる事でより興味をもって欲しい。 ・ 挑戦しようとする意欲を大切にすること。 ・ 砂の性質にどのような気づきがあるのか、どのように工夫していくのかを見守りつつ援助していく。 ・ 遊んだ遊具や用具の片付けができるよう援助する。</p>

(3) 週案

週案		総週 13 週		7 月 第1週		平成10年6月29日-7月4日	
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> 製作コーナーでは、友だちと一緒にセタカザリを作って楽しんでいる。 セミや虫に興味をしめし、友だちと一緒にセミ取り、虫取りを楽しんでいる。 	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 友だちと一緒に遊びながらその中で目的をもったり、互いに気持ちを伝えあったりして遊びを楽しむ。 セタの行事を通して星や宇宙に興味をもつ 	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> 元氣よくあいさつをする。 遊具や用具の使い方や片付け方について話し合う。 履物の整理整頓 		
週の行事	<p>6月 29日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども朝会 10:00 片付け 10:15 ホールへ集合 (OHPを見る) 地震について 絵本返却 <p>30日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> 内科検診を受ける 9時 <p>7月 1日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練 (地震想定) <p>2日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> おべんとう会 検証保育 9:00 ~10:30 <p>3日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵本貸出し <p>4日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> #お手ふき、上履き、コースターを持ちかえる。 	環境及び教師の援助	<p>予想される活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 友だちと一緒に好きな遊びを楽しむ。 〔室内〕 <ul style="list-style-type: none"> ままごと ブロックあそび 絵本 おりがみ (三角つなぎ、輪つなぎ) 〔戸外〕 <ul style="list-style-type: none"> 砂あそび 固定遊具 <p>予想される活動及び教師の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊びが楽しめるように、素材、用具等を用意しておき、必要に応じて使えるようにする。 遊具や用具は元の場所に片づけるようには機会をとらえてみんなで考えたり、個々にしていねいに知らせる。 	内容(育つもの)	<p>身近な自然に親しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> セミ取り、虫取りをする。 飼育動物の世話をする。 草花への水やり <p>訓練を通して災害に対する意識を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練に参加する。 <p>七タについて関心をもち</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなのでせかざりをつくる。 <p>七タについて関心をもち</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統的な行事を知らせ、夢や想像を膨らませるようにつく。 せかざりを作ることによって、共同製作の楽しさを感じとらせる。 短冊に願いごとを書いていくようにする。 		
絵本・紙芝居	<ul style="list-style-type: none"> おりひめとひこぼし たなばた おほしさまになつたたいこ ほしにおねがい 	うた	<ul style="list-style-type: none"> たなばた ヤッコホッホなつやすみ せみ 手あそび ないしょはなし おほしさまゆび 	メ	<ul style="list-style-type: none"> OHP (地震について) の準備 幼児健康診断票の用意 おやつ の用意 せ の用意 せ の準備 せかざりの教材準備 輪つなぎ、三角つなぎ 天の川、すいか等 短冊は各学級でつくる 		

(4) 検証保育を終えて

1 保育者の反省。

- 指導案を作成した先週とは、子どもの活動がかわってきたが、指導案の手直しができなかった。戸外の活動が減り発展しない。
 - ・暑さが一段と増し外と室内（冷房装置）の温度差が大きい事が要因と考える。
 - ・9時半頃までは、せみとり、フープ、砂遊びも見られた。
- 室内（主にホール）の活動が多くなった。
 - ・ままごとコーナー ・エイトブロックコーナー ・製作コーナー ・絵本コーナー
 - レストランごっこ 乗り物づくり 七夕かざりをつくる 絵本を見る
 - おうちごっこ ロボット作り
 - ・ボーリング ・各保育室
 - ゲームをする パズル 折り紙 絵を描く
- ・朝のあいさつは良くなった。 ・遊んだ後の片づけは声を掛け合ってできるようになった。
- 5学級（138人）の交流が行われ、6人の教師が（戸外、ホール、各保育室）それぞれの場面で関わっているが、自分の学級の子どもの活動を掌握する事が出来ず、検証する事の難しさを強く感じた。
- 環境構成を工夫する（遊具の量の調整）事も大切だが物理的に園児数に対してフロアが狭いので幼児の活動や保育の形態の見直しも必要ではないか。
- 保育については記録の方法を工夫し、全職員で降園後のミーティングで情報交換をていねいに行い本音を出し合い、支え合う事が大切とおもう。

2 質疑・意見

- 片づけはみんなでやるのか（田中）答：遊んだ子が自分が関わった場所で片づけるようにしている。
- 当番制度はあるのか（知名）答：ミルク当番、うさぎのえさ当番が主なもの。
- 狭いスペースに多くの子供が遊んでいるが、子供は飽きないのかな。幼稚園では
- 聞く態度が良いが、基本的な生活習慣の指導はどのようにしているのか。（山城）
答：入園当初は、幼児が落ちつける場所を設定する。4、5月は新しい友だちを見つける時期。子供の遊びは変化しており、同じ遊びに見えても自分で工夫し新しい遊びを生み出し発展していく。教師もそのように援助していく。基本的な生活習慣については週案・日案で計画し集会や様々な場を捉えて指導している。
（園長）意図的に遊ばしている。季節や気候によっても遊びはかわる。遊びを組織する事によって変化のある遊びをつくり出している。

3. 指導助言（新城トシエ先生）

- 生活習慣のどういうことがまだ身についてないのか把握することが大切。基本的な習慣（食事や排泄等）は大部分の子ができていますが、社会性の面がうまくいかない。この部分をどう伸ばすかを研究してほしい。社会的な決まりが身につくように、日常の遊びの中からルール必要性に気付かせる事が重要である。核家族化、少子化が進み、自分のことは出来るが、相手との関わりが出来ない子が増えている。自分の行動が相手に迷惑がかかるという事に気づき、自然発生的にルールがつくり出されるのを待つのも教師の援助の大事なところである。そういう点では幼稚園教育から小学校が学ぶ事は多い。幼稚園のホールや園庭が狭いのが気になる。土や緑の中で伸び伸びと遊ばせたいものだ。ホールの環境構成にも工夫してほしい。動的な活動のスペースと絵本コーナーは仕切って静かに絵本を見る事ができるようにした方がよい。
- 学級での読み聞かせで、これまでそっぽを向いていた子が絵本を読み聞かせたらどの子よりも集中して見ていた。この子の社会性が身についていく指導過程を記録して、研究に生かしてほしい。今日は勉強になった。

実践1 小動物へのおもいやり

—うさぎ小屋での会話から—

K子が家からエサをもってきて、一緒に行こうと誘われてK子となかよしのYと3人でうさぎにエサをあげながら

K子「はいはいおいしいよ。これ食べて。」といいながらビニール袋から輪切りにされたにんじんとかぼちゃを取り出してフェンス越しにあげている。

K子「先生、かぼちゃはたべないよ。にんじんばかり食べている。匂いがきらいなのかな。炊いたらよく食べるかな？」

教師「さあどうかしら。」

Y子「炊いたものは食べないよ。にんじんとかはっぱはよく食べるよ。あしたもらってこよっと！」

教師「Yちゃん、うさぎさんのことよく知っているね」

Y子「だってうさぎ飼っているもん。ビーバーって名前だよ。あのね、うさぎはね、汚れてもおふろに入れなんだよ。耳と目と口、鼻も水に濡らしたら死んでしまうって。手と足とお腹は拭いてあげるといいって。」

教師「そう？うさぎさんは水に弱いんだね。お掃除するときうさぎさんに水がかからないように気をつけようね」

Y子「うん 今度のお当番の時そうじしたい！」

K子「K子もホースとほうきでそうじしたい！」

考察

うさぎなどの小動物と積極的に関わり、体験を積み重ね、回りの人や動植物との触れ合いを通して、小さいもの、弱いものをいたわる心、命を大切にできる心が養われ、思いやりの子どもの育っていくと考える。



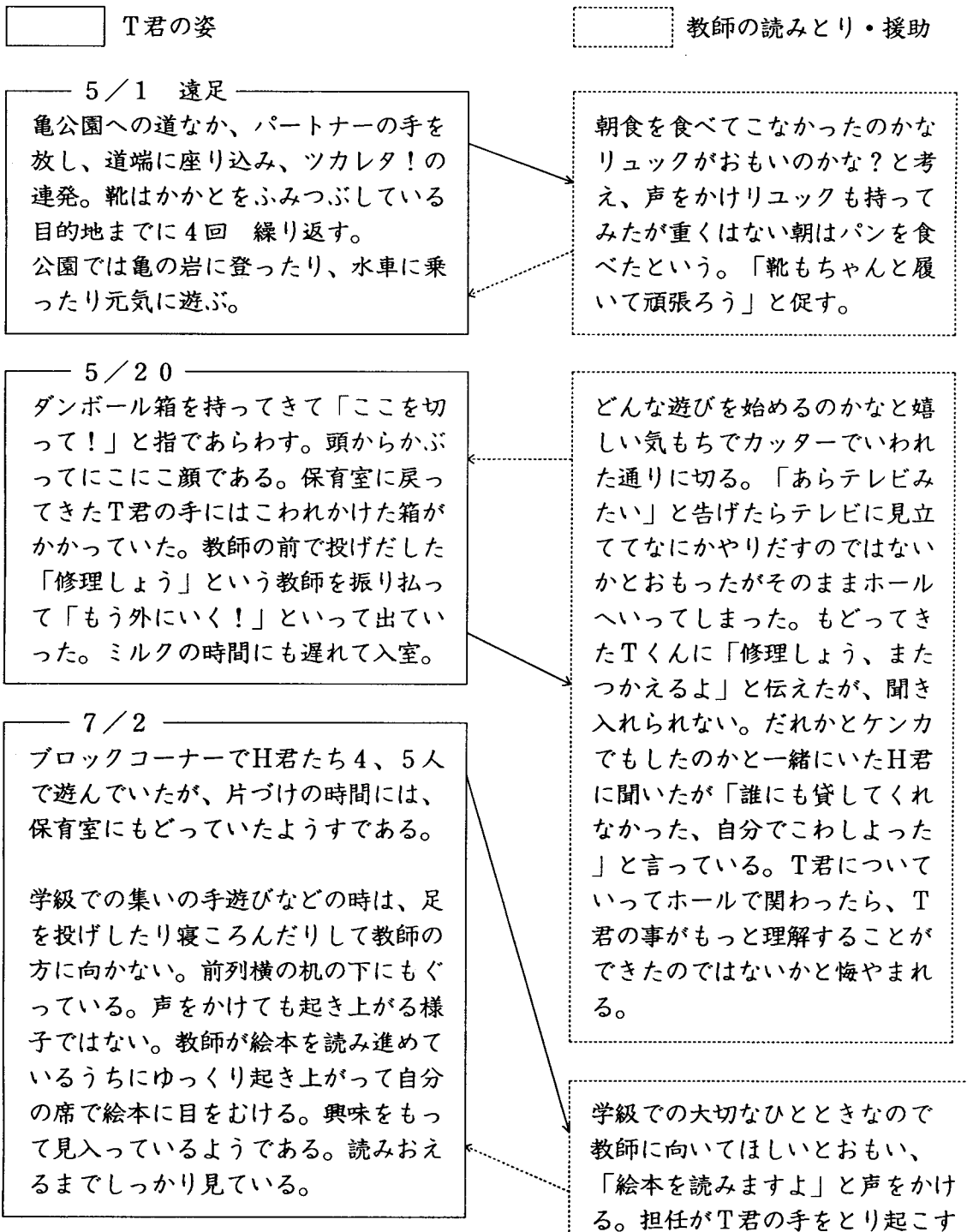
実践2 スリッパがならんで気持ちがいいね。

—保育室のトイレでのK君の姿に出合って—

トイレを使ってでてきたK君が後ろ向きに、スリッパを並べながら出てきた。4足のスリッパがきれいに並んでいる。教師「スリッパが並んで気持ちがいいね。」と言いながらトイレにはいると、K君「先生はおんなだから、ここに置いてね」との事「はい、そうします。教えてくれてありがとうございます」とこたえる。その事を担任に告げると「子どもたちがそのように決めたようです。」との返事である。頼もしい子どもたちである。K君、ともみ先生、ありがとう。

T君のプロフィール

- ・家族 父・母・姉(小二)・本人の4人
- ・共働きで降園後は学童へいく
- ・入園前は保育園を体験している。
- ・好きな遊び(ブロックを組み立てる、ブランコ乗り)でよく遊ぶが、全体での活動(集会での話し合い、ダンス、体操)の場では寝ころんだりし、担任や友だちが声を掛けたりするが聞き入れないことが多い。



7/16 明日は終業式

長い夏休みにはいるので、ままごとやブロックも休ませてあげようとみんなで話し合いK君はエイトブロックの係になる。種類、形、色等 様々なブロックを見事に収納かごに並べて収めている。毎日使っている遊具だから形もていねいに組み合わせておさめている。それぞれの子どもたちは、いつもの片づけの時と雰囲気がちがう。教師の声でままごとコーナーの友だちも覗きにくる。すごい！きれい！と声があがる。K君たちのとくいそうな顔、晴れやかな顔をみることができた。ゴミがかからないように新聞紙を被せて置くことにする。Aちゃんが保育室からセロテープをもってくる。新聞紙とテープをつかってブロックもままごとコーナーも覆われた。一ブロックもままごとも9月までお休みなさいー

ような手助けをするがそのままの状態である。読みつづけているうちにT君の視線を感じ、読む声に力がいっていく。T君は絵本が好きなんだな。これからも、沢山読んであげようとおもった。

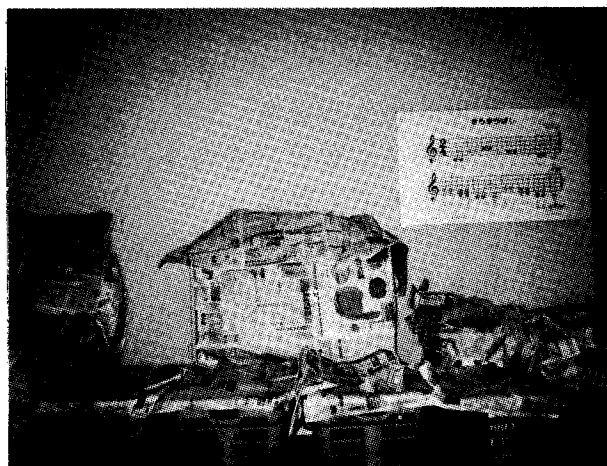
担任はK君たちと、教師（私）は常設のままごとコーナーでかかわることにする。夏休みのこと、今日まで沢山遊んだことなど話しながら楽しく一緒にかたづけるようにした。

T先生が「みんな、見てごらんこんなにきれいに片づけてるよ」とよびかけている。教師も「すごい！りっぱだ。よくやった！」と感激の声をはりあげる。

「みんなの大好きなエイトブロックも、ままごとも、夏休みはおやすみさせようね」と小さな声で話しかける。9月に素敵な出合いができることを願ってみんなで保育室へ戻る。

考 察

好きな遊びには取り組むが、思いどおりにならない場面にあうと遊びをやめてしまったり、片づけはやらない、みんながあつまるところでは座って話しが聞けないなどのK君の姿を見ると、どうしてだろうかと考える。子どもの持ち味や生活の変化は教師が子どもと様々な場面で触れ合いを重ねるなかで、徐々に理解されていくと思われる。焦らないで長い目で見ていくことにしようと考えている。



VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 幼稚園教育指導書増補版を始め、幼児理解、援助のあり方、遊びの構造等に関する専門書を読み、幼児理解、援助についての理解を深める事ができた。これまでの自分の保育を振り返って、見直し、反省する機会になった。
- (2) 「家庭における基本的生活習慣」のアンケートをとることにより、幼児の実態を把握することができ、個々に対する援助の方向性が見えてきた。
- (3) 幼児の行動を記録し教師間で情報を寄せ合い、共通理解の基に援助する事の大切さを痛感した。
- (4) 幼児が友だちに関わって遊ぶ中で、様々な感情体験を重ねることによって、
・あいさつ ・遊んだ後の遊具や用具の片づけ ・みんなで絵本を楽しむ
・当番活動の自分の役割を果たそうとする。等の育ちが見られた。
- (5) 「社会生活における望ましい生活習慣」を身につけるには、幼稚園の果たす役割の重要性が確認された。

2 研究の課題

- (1) 家庭で身につけてきた生活習慣が一人一人異なることを十分考慮し、その子自身のペースで身につけて行くこと事のできる場や時間を確保することを配慮し、環境を幼児と共につくっていききたい。
- (2) 二学期からの研修を園内研修につなげ、個々の幼児の様々な課題への取り組み、具体的な援助、指導法を工夫し実践を深めたい。
- (3) 幼稚園と家庭・地域との連携のあり方等、工夫したい。
- (4) 幼稚園においては、前期研修の検証保育の読み取りについては難しい面があり今後の課題になるかと思う。

[参考文献・引用文献・資料]

幼稚園教育指導書	文部省	フレーベル館
基本的生活習慣の手引き	県教育委員会	
幼稚園の教育課程	西久保礼造	ぎょうせい
幼児の発達と遊びの姿	” ”	
保育基本用語辞典	岡田正章	第一法記
幼児教育への招待	森上史朗	ミネルヴァ書房
保育の形態とその展開	西久保礼造	教育出版
新・幼稚園教育要領を 読みとるために	高杉自子 野村睦子	ひかりのくに